

人の才能は無限大

高橋輝男さん(七十二歳)
高橋珠算学院学院長

●ソロバンを始めたのは十歳でした。多くの子どもたちが放課後、自転車で中坪の公会堂に駆けつけました。楽しかったなあ。大貫小学校脇にある高橋珠算学院に、懐かしの輝男先生を訪ねました。

正恵 珠算塾を、中坪に開いたのはいつだったでしょうか？

高橋 昭和四十年(一九六五年)。私、二十三歳でした。



正恵 どういういきさつで開いたんですか？

高橋 中坪から大貫に通って、習ってる生徒がいたんだね。遠いでしょ。中坪に開設して欲しいという要望があったの、町区の相澤一さんから。そのころ相澤さんは町区のかなにか世話役をしていた。町区の公会堂を借りられたのも相澤さんの計らい。

正恵 そうでしたか。

高橋 トヨタのバブリカ・ライトバンを大きくして、公会堂の広場でみんなでラジオ体操をした、夏休みに。早朝練習は五時からだった(笑)。それでいいって言うんだもの。

が四力所あって、大貫、沼部、中坪、中津山。週三回でフルにまわっても二力所しかまわれない。だから土曜日は三力所まわる。日曜日もやってた。寝る暇なかったね。

正恵 情熱的でしたよね。

ソロバンを習って良かったと思うのは上達したことも勿論なんです。学校の授業とは違う雰囲気を感じたことですね。学校は同じクラスの人たちとだけずっと一緒に。ソロバン教室ではクラスが違う同級生とも一緒に。上級生や下級生とも一緒に。

高橋 トヨタのバブリカ・ライトバンを大きくして、公会堂の広場でみんなでラジオ体操をした、夏休みに。早朝練習は五時からだった(笑)。それでいいって言うんだもの。

高橋 上下関係に慣れるよね。それと下級生の方がうまかったり、兄弟でも弟や妹の方がうまかったり。ソロバンというのは年齢とか性別関係なく「級」で競え合えるしね。競争社会だから。ところが今の学校教育は違うから。一等、二等、三等、優劣つけるのをうーんと嫌う。

正恵 ソロバンは、当時ブームだったのか、随分生徒さんがいました。高橋 そうだね。小学生から高校生まで、中坪教室だけで八十人、百人いたかなあ。あのころは金融機関とかに勤めるには三級以上の資格がないとダメだったから(資格をとるために)農協とか役場に就職した人も来てたよね。

正恵 高校受験や大学受験で、当日おなかが痛くなる子が結構な数いるそうです。私は検定試験や競技大会で鍛えられたので、そういうことはありませんでした。

高橋 そうだね。小学生から高校生まで、中坪教室だけで八十人、百人いたかなあ。あのころは金融機関とかに勤めるには三級以上の資格がないとダメだったから(資格をとるために)農協とか役場に就職した人も来てたよね。

高橋 小さいころから緊張感を味わい、それに慣れることは大事だね。後ろ前、左右、顔も見たことない人と並ばせられてね(笑)。特に競技大会で優勝決定戦になると、一対一

り算の答のたてかたの早い子。あと素直な子、耐久力のある子だね。飽きやすい子はダメかもしれない。中坪にも優秀な子がいっぱいいるんですよ。平針の樋口さんとか町区が目黒さんの孫さんとか。

ね、十一位だったの。それでショックを受けてきた。その子のおじいさん、おばあさんは、その子が挫折したときが一番こわいと心配しているんだよね。んだがら負けて良かった。自分よりもっと上がいるんだということ。今うちに自覚させておかないと。それを機会にもっと伸びていくから。その子は今小学校の二年生。五桁×五桁が出来んだよ。

正恵 中坪に来ていたころは一人でやってたんじゃありませんか？

正恵 困ったときの神頼みで、神仏に手を合わせることも大切だぞ」とか、そういうことは言いますか？

で壇上でやるんです今。みんなの前で紹介されて。勿論、問題数も多く、たとえば、かけ算二十問、制限時間一分とか、そういうのでやるんです。出来たら「はい！」と手を挙げる。もう顔色すこいですからね。それを緊張感持ちつつ平然とやる子がいます。あの子どもたちはどこへ行っても大丈夫だなと、思います。

正恵 塾に通わせてもらって良かったと思うのは、そこそこの大貫小学校に来て、ソフトボール大会とかして他校の生徒と交流できたこと、あれは楽しかったですね。ああいうレクリエーションは先生のアイデアだったんですか？

高橋 私が好きだから(笑)。野球をはじめスポーツはみんなやってた。じゃあ塾の子どもたちにもやらせよう、ということが始めたの。ソフトボール、野球、女子はドッチボール。あのころはお父さんお母

さんたちも何かさせろということでもバレーボールをさせた。親の会ね。優勝カップやら賞品を用意して。ただ、あのころはスポーツ保険はかけなかった。今だったら大変なことだよ(笑)。骨折した、擦りむいた、必ずあるからね。今はスポーツ保険は必ずかけています。

怒ったのではダメ

高橋 私が好きだから(笑)。野球をはじめスポーツはみんなやってた。じゃあ塾の子どもたちにもやらせよう、ということが始めたの。ソフトボール、野球、女子はドッチボール。あのころはお父さんお母

正恵 塾を始めて五十四年だそうですが、全国大会で優勝した生徒はいらっしゃいますか。

高橋 いまですよ。全日本で優勝した子が十人ぐらい。

正恵 塾を始めて五十四年だそうですが、全国大会で優勝した生徒はいらっしゃいますか。

高橋 いまですよ。全日本で優勝した子が十人ぐらい。

育て方はね、まず伸びそうだと思う生徒を、担当の先生がたに推薦してもらおう。それを受けて、親に連絡する。承諾を得たら強化練習です。日曜祝祭日、午前九時から正午まで。そのなかから年に一回「そろばんグランプリ東北大会」を開催して、優秀な子を県大会、そして全日本の予選へと出してやる。全日本に出て行く子は幼稚園のころから習っています。伸びる子は、暗算力のある子と割

育て方はね、まず伸びそうだと思う生徒を、担当の先生がたに推薦してもらおう。それを受けて、親に連絡する。承諾を得たら強化練習です。日曜祝祭日、午前九時から正午まで。そのなかから年に一回「そろばんグランプリ東北大会」を開催して、優秀な子を県大会、そして全日本の予選へと出してやる。全日本に出て行く子は幼稚園のころから習っています。伸びる子は、暗算力のある子と割

この間もね、埼玉で「クリスマスカップ」という大会があった。そこで、うちのある子が日本一狙うって言うんだおん。「日本一」というのはなろうと思つてなれるもんじゃありませんよ。気持ち的にうまくノったときになれるんで、とうとうと思つたってとれないからね」って。そしたら

高橋 思わずかしいね(笑)。

高橋 負けるときは、怒ったのでは絶対だめだね。声がけをして、なくさめであげないと。だから検定試験でも合格した子より失敗した子に声をかけてフォローしなさいよと指導してんの、先生方にも。

高橋 負けるときは、怒ったのでは絶対だめだね。声がけをして、なくさめであげないと。だから検定試験でも合格した子より失敗した子に声をかけてフォローしなさいよと指導してんの、先生方にも。

高橋 負けるときは、怒ったのでは絶対だめだね。声がけをして、なくさめであげないと。だから検定試験でも合格した子より失敗した子に声をかけてフォローしなさいよと指導してんの、先生方にも。



◀35歳のころの輝男先生